不知火海・球磨川流域圏学会誌
J. Jpn. Soc. Shiranui & Kumagawa Reg. Studies
Vol. 11, No. 1, 2017, pp. 31-37

【流域いろいろ】

天草のダイビングについて

中野　誠志 [1)*]

1 熊本ダイビングサービスよかよか　〒863-0041 熊本県天草市志柿町 6634-10
*e-mail: sayseanakano@gmail.com

概　　要

天草地方は有明海，八代海，東シナ海の３つの海に囲まれている．島々に囲まれた場所では，風裏に回ることで波浪を避けることができるため，台風の接近した時を除けば，一年中いつでもダイビングが可能である．天草地方の北部に位置する海底が砂地の有明海，東部には砂泥底の八代海，西部と南部には外洋に面した東シナ海がひかえる．これらの３つの海・４つのエリアにはそれぞれに特色があり，住んでいる生物や海中環境などが異なり，多様性に富んでいる．

キーワード：天草，有明海，ダイビング，東シナ海，八代海

Ⅰ 天草北部，有明海のダイビング

透明度が通年３～５m程度と不良である有明海に面する天草北部では，ダイビングポイントは上天草市大矢野町の白涛海水浴場周辺に限られている(図1)．この透明度が悪いことに加えて，公衆トイレがなかったり，遠浅の地形で大潮時の干満差が最大４ｍにも達することから，ダイビングを楽しむには不向きな条件が多い．しかしながら，熊本市内から車で約１時間，久留米市から約２時間という立地の良さと，じっくり生物を探しながら潜ればいろいろ見つかるというポテンシャルの高さから，フォト派ダイバーには人気のダイビングスポットとなっている．

図１　上天草市大矢野町の白涛海水浴場

この海域の水温は，冬に低い年では10℃台まで低下する一方，夏には最高水温が29℃ぐらいまで上昇する．冬から翌春には海藻が海底に繁茂し（図2(a)），そこでは春から初夏にタツノオトシゴの繁殖行動が見られ（図2(b)），盛夏になると多数のタツノオトシゴの子供たちを観察できる．冬になると，日本の生息地の南限とされるダンゴウオ（図2(c)）が多数見られるようになる．アイナメやクジメが美しい卵（図2(d)）を守っている様子も観察できる．ダイビング中にイルカに遭遇することもある．

白涛海水浴場は，ナイトダイビングの場所としてもおもしろい所である．マダコの放卵や孵化（図 3(a)），イイダコやテナガダコ，ミミイカ，チョウチンイカ，ダンゴイカ，タイワンガザミ（図 3(b)），ヒメオコゼ（図 3(c)）やツノナガコブシガニなど，夜行性の生き物たちを観察できることでは，枚挙に暇がない．

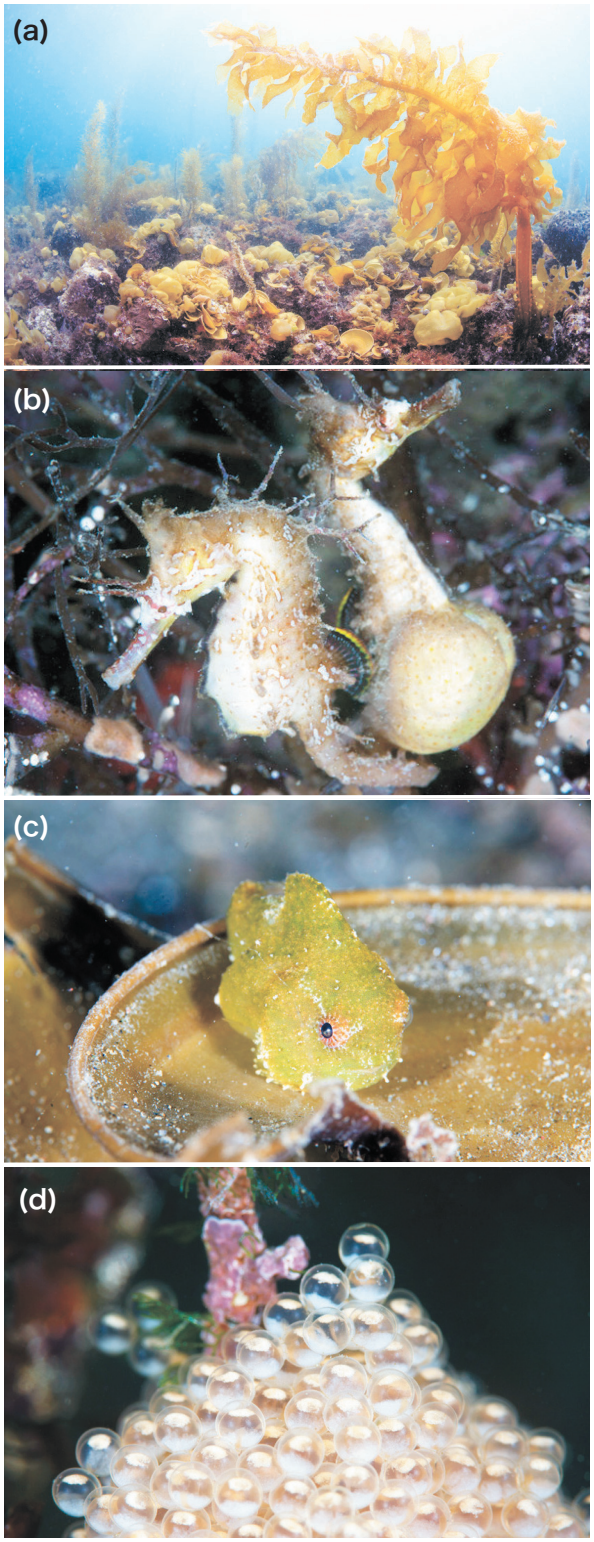


図 2　(a) 海底に繁茂した海藻（冬から翌春），(b) タツノオトシゴの繁殖行動（春から初夏），(c) ダンゴウオ（冬），(d) アイナメの美しい卵塊（冬）

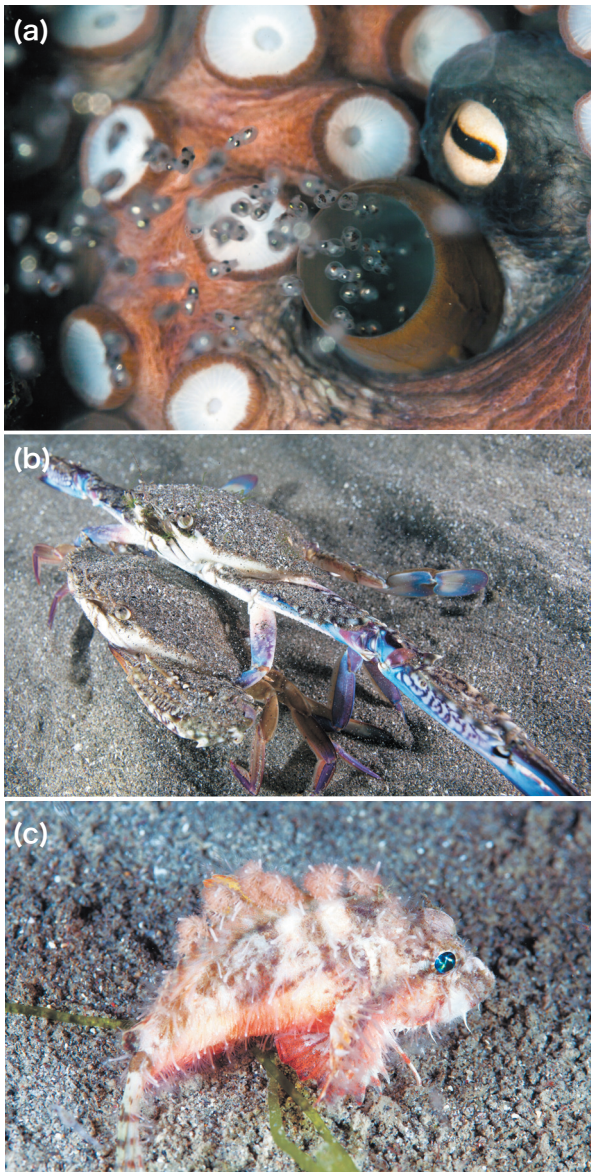
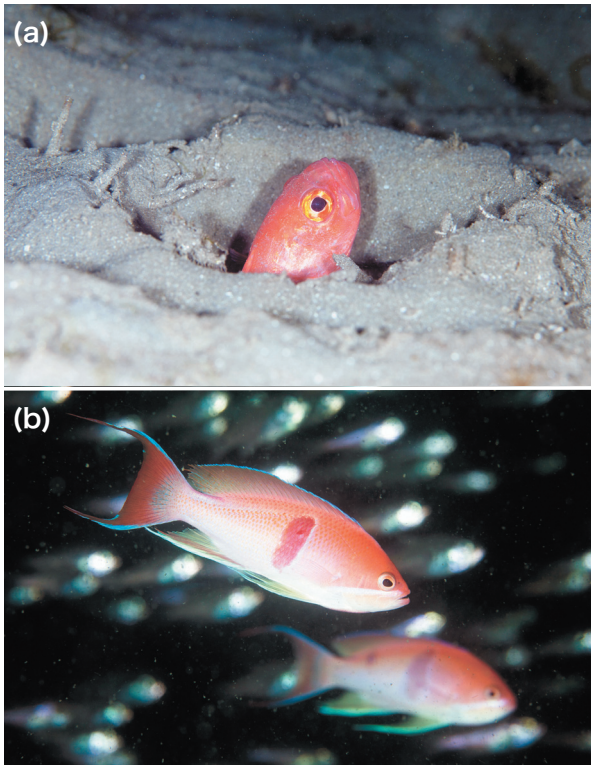


図 3　(a) 交尾ガードをしながら逃げるペアのタイワンガザミ，(b) 体中にサカナウミヒドラが付いたヒメオコゼ幼魚，(c) マダコの卵の孵化シーン

II 天草東部、八代海のダイビング

天草の東海岸に位置する八代海側の海は，沿岸では岩礁地形が広がっているが，沖合の海底は砂底や砂泥底となり，鯛釣りが盛んに行われる漁場となっている．牛深に近づくほど透明度が良くなり，生物たちも南方系の種が増えていく．水温は冬の厳しい年には 12℃台にまで低下し，夏には最高で 28℃ぐらいまで上昇する．

この海域では，地元の方たちや漁民に迷惑をかけないように十分配慮しながら，立海水浴場，深海町の「みど浦」, 小松崎, 大の浦などでダイビングを行っている．観察できる代表的な生物には，イッテンアカタチ（図 4(a)），ハナイカ，昨年 10 月に新種として発見されたアマクサクリオネ（仮称）などの珍しい種が含まれる．アカオビハナダイの端麗な姿（図 4(b)），ミズタマウミウシ（図 4(c)），キビナゴ，春にはアカモク，ワカメ，ウミトラノオなどの海藻の群生（図 4(d) ～ (f)）が観察できる．



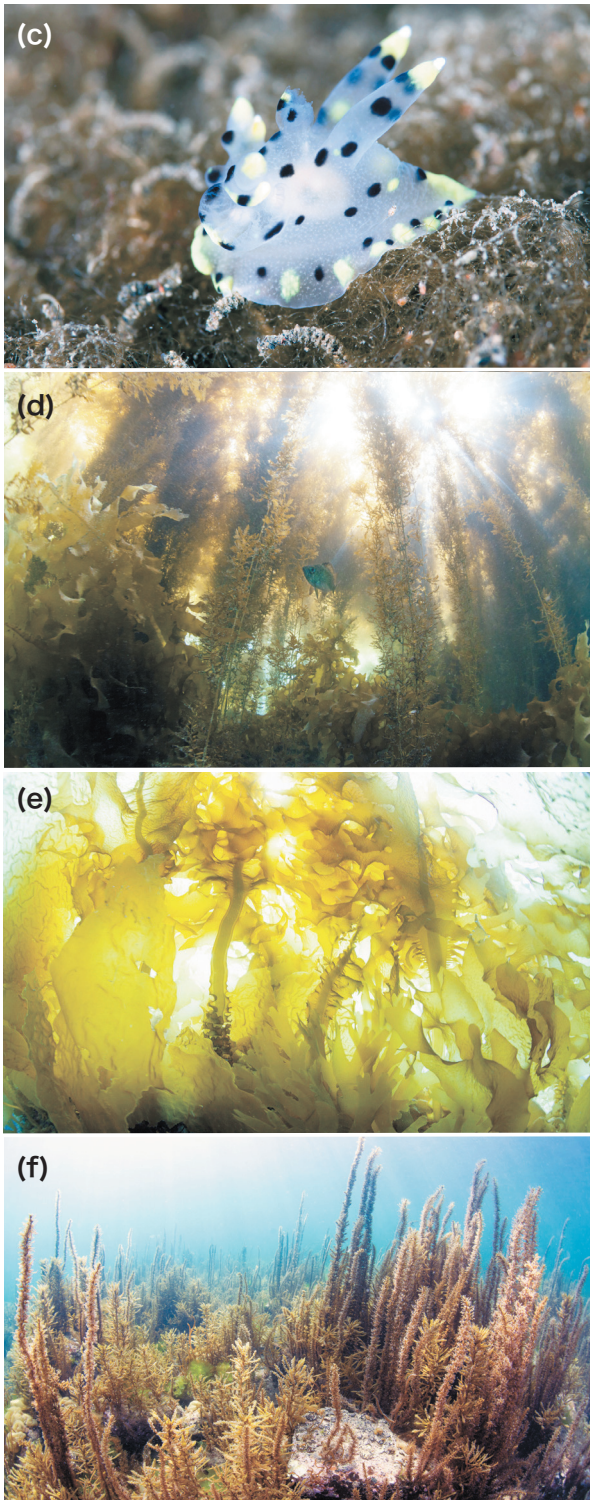


図 4　天草東部の海で観察できる生き物たち．(a) イッテンアカタチ，(b) アカオビハナダイ，(c) ミズタマウミウシ，春に群生する海藻類：(d) アカモク，(e) ワカメ，(f) ウミトラノオ

III 天草西部　天草西海岸のダイビング

天草の西海岸は東シナ海に面しており，妙見ヶ浦などでは，ともすれば牛深よりも対馬暖流の影響を強く受けて，透明度の良い日が多い．このあたりの地層は古く，約 7,000 万年前の層が広がっていて，数多く見られる海食洞には，大きさは小さいものの鍾乳石が無数に見られる．海岸沿いの道路は高度が高く，海中も高低差のある地形となっており，その外観は豪快そのものである．変化に富んだ地形を背景に，爽快なダイビングを楽しむことができる．

水温は厳冬の年には 13℃台まで低下し，夏には最高で 30℃くらいまで上昇する．天草の西海岸は冬の北西風による風浪の影響と，梅雨期から夏にかけての土用波（うねり）の影響を受けやすいが，岩礁の海岸では砂が巻き上がりにくく，海水の透明度には大きな影響を与えない．

ビーチダイビングスポットとしては，鬼海ヶ浦，小田床（図 5(a)），妙見ヶ浦（図 5(b)），西平などがある．とくに妙見ヶ浦は，福岡や熊本から来るダイバーに人気のダイビングスポットとなっている．ボートダイビングスポットとしては，妙見ヶ浦沖，高浜の沈没船（図 5(c)），大ヶ瀬（図 5(d)）などがある．

惜しむらくは，もっとも人気のある妙見ヶ浦でさえ，30 年ほど前に作られた古い公衆トイレしかないことである．日本各地の多くの人気ダイビングスポットのように，きちんとした公衆トイレ，更衣室，シャワー室などが施設が備えられていれば，天草西部におけるダイビングの価値はさらに高まることと思う．

この海域のダイビングの代表的な見所としては，日本の名勝に指定されている妙見ヶ浦の海食洞風景（図 6(a)），初夏になると，おびただしい

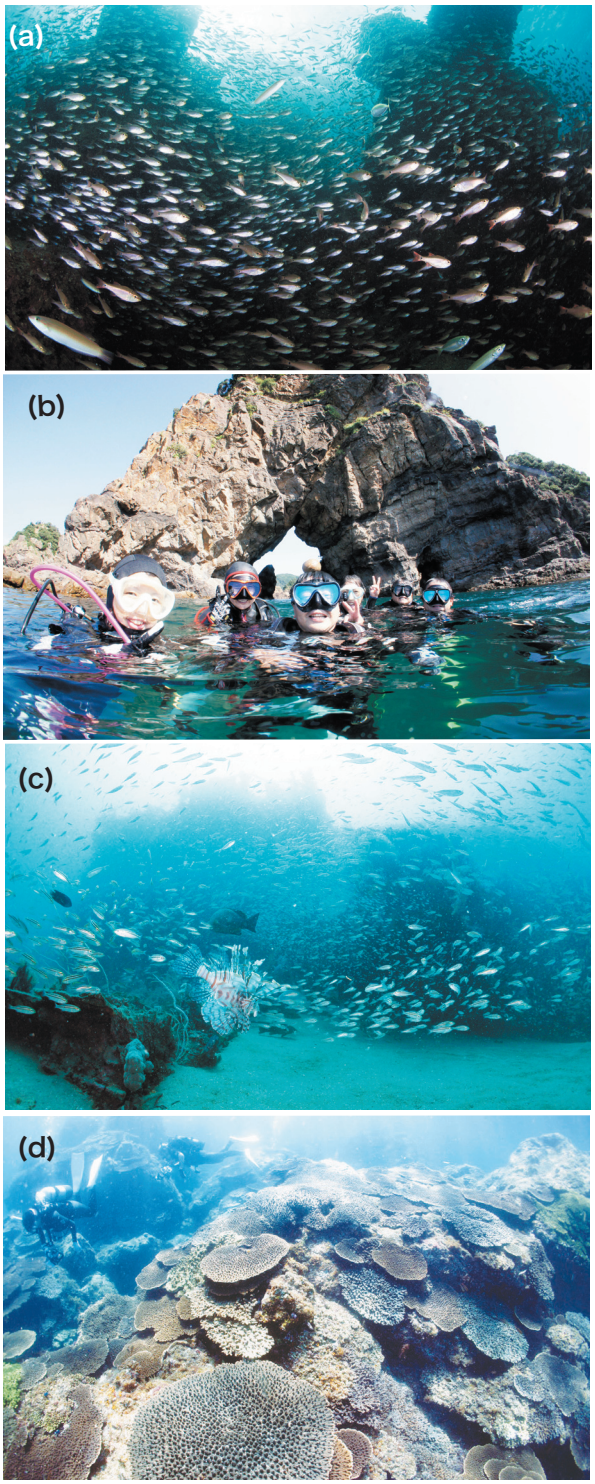


図 5　天草西部のビーチダイビングスポット．(a) 小田床に群れる魚，(b) 妙見ヶ浦でダイビングを楽しむ人達，(c) 高浜の沈没船付近に群れる魚，(d) 大ヶ瀬のテーブルサンゴ

数のキンメモドキの群，マアジの群れ，カマスの群れなどを見ることができる．海水の透明度は平均で約 10 m，もっとも澄んだ時には 30 mを超えることもあり，「天草ブルー」の美しい海中風景は圧巻である（図 6(b)）．夏にはアオリイカ，スズメダイ，クマノミ，コブヌメリ，ギンポの仲間（図 6(c)）などの産卵を観察することもできる．

IV　天草南部　牛深でのダイビング

東シナ海に面する天草最南端の牛深では，ビーチダイビングとボートダイビングの両方を楽しむことができる．牛深周辺の沿岸は，サンゴが群生している岩礁の地形となっているが，少し沖合では砂地や砂泥の地形となってい

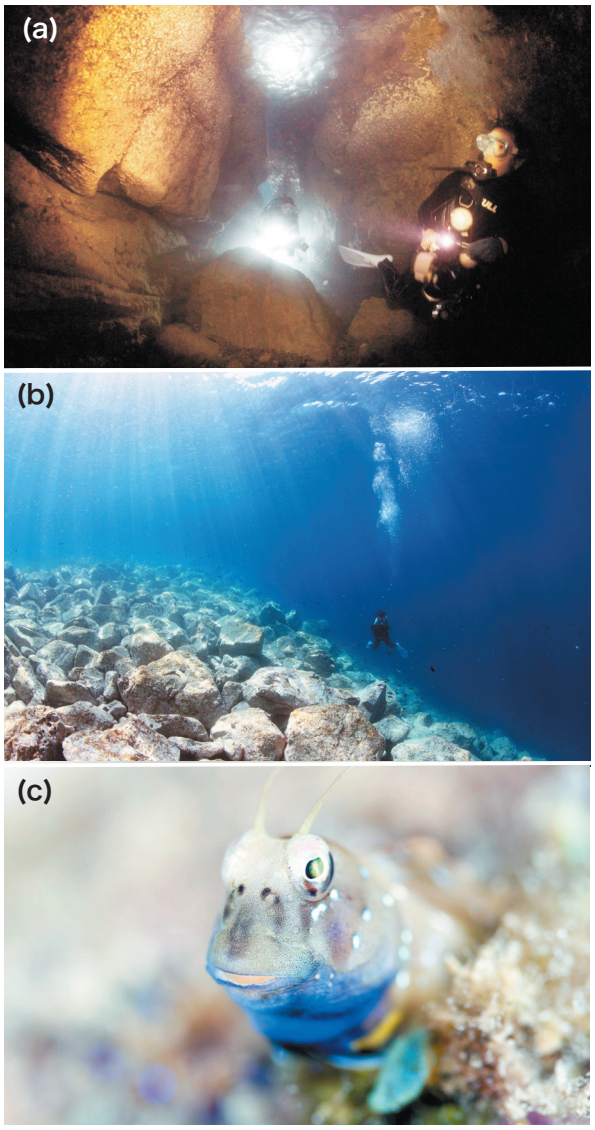


図 6　天草西部のダイビングの代表的な見所の 1 つ，妙見ヶ浦．(a) 日本の名勝に指定されている海食洞風景，(b) 透明度の高い「天草ブルー」の海中風景，(c) ローソクギンポ

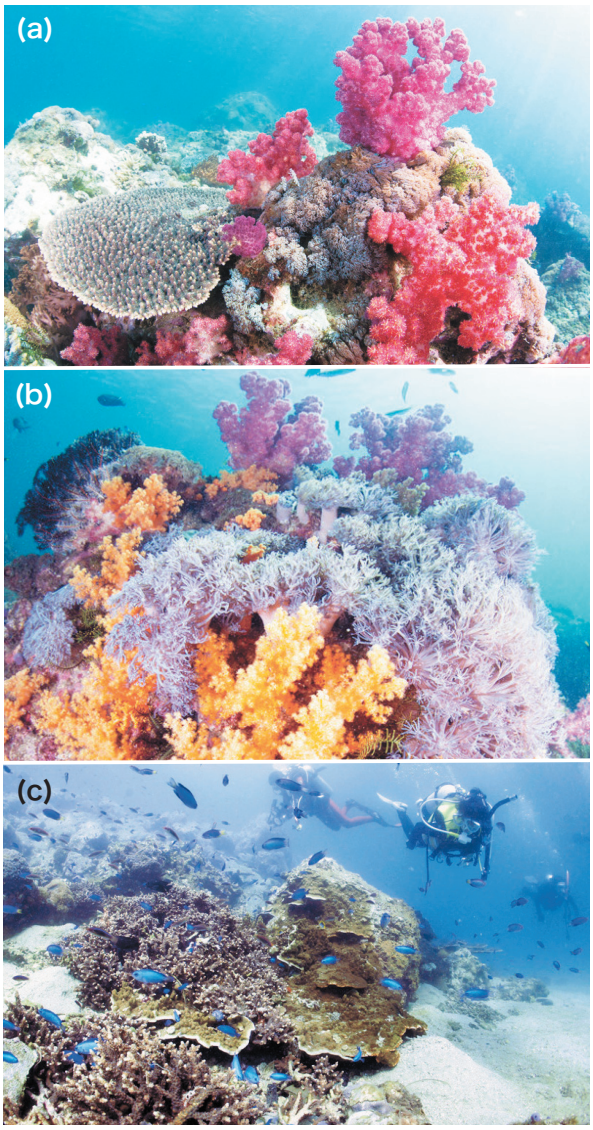


図 7　天草最南端の牛深にある海中公園の風景．(a), (b), (c) サンゴが群生する岩礁の地形．

る（図 7）．内湾で行うことが多いビーチダイビングでは，水の濁りの影響，うねりの影響を受けやすい．一方，ボートダイビングではうねりの影響も少なく，透明度も 10 mほど得ることができて，良好な場合が多い．片島などの離島では，最高で 30 mほどの沖縄の海に匹敵する透明度となり，人気のダイビングスポットとなっている（図 8(a), (b)）．水温は厳冬の年でも 14℃台に低下する程度であり，夏には最高水温が 30℃ぐらいまで上昇する．

牛深はテーブルサンゴの産卵が見られる北限付近に位置し，毎年 7 月下旬～ 8 月上旬頃にクシハダミドリイシなどの産卵が見られる．産卵は午後 10 時～午前 0 時頃の時間帯に起きる．この海域で見られる代表的な生物は，離島の岩肌を全部覆うほど群生しているテーブルサンゴ類，それを食べるオニヒトデ，キビナゴの群生，アオウミガメ，クマノミ（図 8(c)），南方系のチョウチョウウオやウミウシなどが挙げられる．外洋に面していることから，ごく稀にイトマキエイやジンベイザメなどが目撃されることもある．

2017 年の 2 月には，ナルトビエイの 200 尾ほどの大群を牛深の水深 28 mの地点で目撃した．本種は春に佐賀県から福岡県沿岸，初夏には熊本沿岸というルートで，時計回りに有明海を 1 年かけて回遊していると考えられている．冬場の越冬地がどこにあるのかは謎とされてきたが，この目撃例は牛深周辺の海域を冬季に集団で回遊していること示唆するものである．

近年，LED の進歩により，ブラックライトと呼ばれる UV（紫外線照射）ライトが手ごろな価格で発売されようになった．この UV ライトを使ったサンゴや生物たちの蛍光発光の観察（図 8(d)）が人気となってきている．世界で約

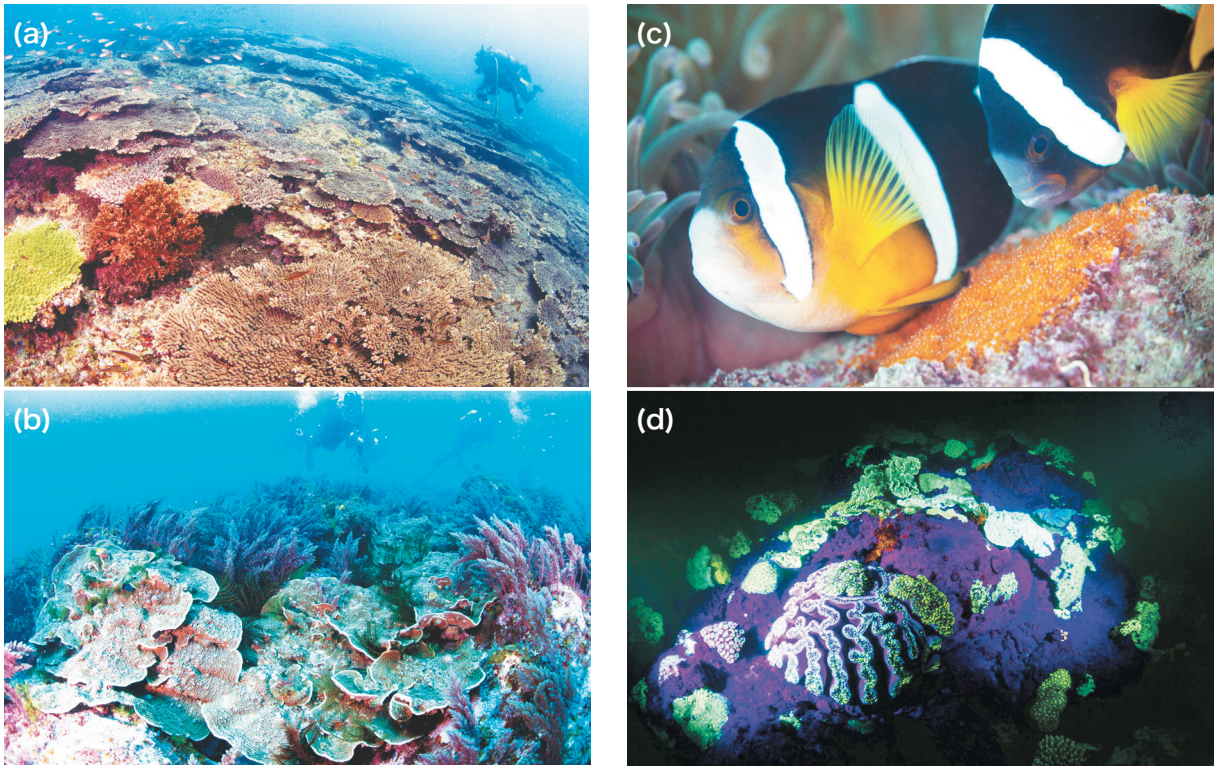


図 8　サンゴ礁が広がる牛深のボートダイビングスポット．(a) 大島，(b) 片島，(c) クマノミの産卵，(d) UV（紫外線照射）ライトに反応して蛍光を発するサンゴ

800 種類と言われるサンゴのうち，天草地方には約 100 種類が生息している．そのサンゴの有数の生息地である牛深は，蛍光発光ダイビングに最適な場所の 1 つと位置づけられる．

V まとめ

天草地方におけるダイビングについては，今から 30 年ほど前には，地元の漁民との軋轢が多く発生していた．ダイビングを終えて海中から戻ってくると通報されて警察が来ていたり，ボートダイビングしている船に海上保安庁が乗り付けてきたり，漁師に密漁していないかと BC ジャケットのポケットをその都度改めさせられたりすることが少なくなかった．

そうした数々の誤解を解くための先人ダイバーたちの努力の甲斐あって，現在ではこのような地元漁民とのトラブルになることは滅多に起きていない．それでも，私の場合を例に取ると，漁師さんに「こら〜！何ば採りよっとか！」と言われることが年に 1 回程度起きている．現在，ダイビングショップが管理するツアーにおいて，そうした密漁をしているところは皆無と言って良い．

海から採れる魚介類が直接的な収入となっている漁師さんたちの中には，まだなかなか想像が付かない方もおられるようであるが，ダイバーはモノを取るのではなく，水中写真を撮って楽しんでいるのであり，食堂やホテルで出される美味しい魚料理や海の風景など，ダイビング旅行全体を楽しんでいるのである．さらには，ダイバーは水中世界の移り変わりを観察・記録し，海を愛しているので，海中のゴミなどを無償で清掃することも行っている．このような「スキューバダイビング」の正確な情報発信は，粘り強く定期的に発信していかなければならないことだと思う．

日本最大のダイビングエリアである静岡県伊豆半島では，漁協が運営するダイビングセンターがいくつもある．このような所では，ダイバーが直接地元に利益をもたらすので大変歓迎されていて，感謝祭が行われているところもある．ところが，天草地方をはじめとして，九州全体でダイビングは野放図にされてきてしまった．ダイバーの数が関東に比べて多くないので，儲からないという漁協の判断にも由来していると思われる．このように地元とうまく絡めないことで起きる誤解や齟齬は，お互いにとって大変不幸なことである．引き続き地元に歓迎してもらえるような良い天草地方のダイビングのあり方を模索しながら，ダイビングの運営を続けていきたいと思う．